

シベリア抑留者（ウクライナ）木内信夫氏(故人)のご家族 舞鶴引揚記念館への訪問について

第2次世界対戦後、旧ソ連時代のウクライナに抑留された木内信夫氏（令和3年4月逝去享年97歳）のご家族が令和8年4月18日（土）に舞鶴引揚記念館を訪問されることになりましたのでお知らせいたします。

なお、木内氏は抑留生活の記憶をもとに描かれた絵画を舞鶴市に寄贈されており、平成27（2015）年10月にはユネスコ世界記憶遺産に登録されています。

1. 訪問日 令和8年4月18日（土）13時ごろ
2. 来訪者 木内正人氏（木内信夫氏長男）、信夫氏の奥様ほか
※正人氏は、信夫氏が存命中から父親の抑留の史実の継承活動を支え、逝去後も意思を継いで講演などをされています
3. 木内信夫氏 略歴

大正12年（1923）	東京赤坂に生まれる
昭和19年（1944）	航空技能養成学校卒業 卒業後は満洲で飛行部隊に入隊
昭和20年（1945）	8月23日ソ連軍の捕虜となり、朝鮮の三合里に収容後、ソ連領内を転々としたのちウクライナのスラビヤンスクへ収容される
昭和23年（1948）	7月恵山丸で舞鶴へ帰還
平成8年（1996）	抑留の体験画を舞鶴市に寄贈
平成27年（2015）	体験画40点が「ユネスコ世界記憶遺産」（舞鶴市）に登録
令和3年（2021）	逝去 享年97歳
4. 当日の日程（ご取材いただけます）

13時ごろ	舞鶴引揚記念館到着
	セミナールームにて木内信夫氏の絵画を見学
	引揚記念館職員や「舞鶴・引揚語りの会」と懇談 など



5. 木内信夫氏作画のユネスコ世界記憶遺産登録資料について

平成27年10月10日に舞鶴市所蔵のシベリア抑留や引き揚げに関する資料570点が、世界記憶遺産に登録。内、40点が木内信夫氏の体験画となります

- ・木内氏の絵画には、過酷な抑留生活だけでなく、ドイツ人の抑留者やロシア人との交流の様子が描かれています。
- ・昭和23年の帰国直後に作画されており、記憶が鮮明なうちに記録された絵画はあまり類がなく希少性の高い資料です。
- ・絵とあわせ文字で説明されており記録性が高い資料です。



▲ユネスコ世界記憶遺産登録資料(木内氏作画)の一部

【参考：「ユネスコ世界記憶遺産（世界の記憶）」について】

- ・文書や書物、楽譜、絵画、映画などの記録史料が対象となり、2年に1度、資料の真正性や世界的な重要性が審査されます。
- ・現在、世界で570件（内、国内9件）が国際登録されています。主なものには、「アンネ・フランクの日記」（オランダ）、「ベートーベンの手書きの楽譜」（ドイツ）、「御堂関白記（国宝）」（日本）などがあります。



まち
この舞鶴に
北陸新幹線を。

舞鶴引揚記念館 館長 嵯峨根吉宏
〒625-8555 舞鶴市字北吸1044

TEL:0773-68-0836、FAX：0773-68-0370

E-mail:hikiage@city.maizuru.lg.jp

《舞鶴市の登録概要》

資料名：「舞鶴への生還 1945－1956シベリア抑留等日本人の本国への引き揚げの記録」

点数： 570点

登録日：平成27(2015)年10月10日

推薦書の概要：

「舞鶴への生還 -1945～1956シベリア抑留等日本人の本国への引き揚げの記録-」は、第二次世界大戦の敗戦にともない日本帝国が崩壊する中で、ソ連領に抑留された約60万人から約80万人といわれる日本軍人と民間人たちの、筆舌に尽くしがたい抑留生活と日本本国への苦難に満ちた引き揚げの歴史を伝える資料である。彼らの本国への引き揚げは、終戦から11年を経た1956年に終了するが、ソ連はすでにドイツ人等の旧敵国側の軍人と民間人の抑留を同様に行っており、日本人の抑留もその一環としての同時代的意味を持つ歴史的出来事である。また抑留と引き揚げは、戦後の日本では、国民が戦争のない平和な世界を希求する上での大きな礎となった稀有な体験として、後世に語り継ぐべき大きな戦争の記憶となっている。

当該資料は、意に反して抑留された抑留者たちの困窮や絶望、生き抜く力、家族への思いや帰国への希望、そして彼らの帰国を待つ留守家族の家族愛と日本国民の同胞愛など、人類共通の普遍的主題を伝えるものである。公的記録が乏しい中、奇跡的に現存する当該資料は、第二次世界大戦後の悲惨な惨禍を生き抜いた、一人ひとりの人間性あふれるまさに稀有な、真正無二の世界が共有すべき貴重な遺産である。



まち
この舞鶴に
北陸新幹線を。

舞鶴引揚記念館 館長 嵯峨根吉宏
〒625-8555 舞鶴市字北吸1044

[TEL:0773-68-0836](tel:0773-68-0836)、[FAX:0773-68-0370](tel:0773-68-0370)

E-mail:hikiage@city.maizuru.lg.jp